

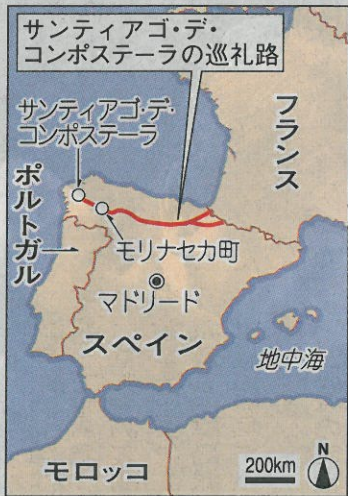
スペインにある世界遺産「サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路」に、高松市の特定非営利活動法人（NPO法人）「遍路とおもてなしのネットワーク」などが現地の町と協力して今秋、遍路資料室を開設する計画を進めている。

# 「SHIKOKUへ来て」 スペイン巡礼路で遍路紹介

## 高松のNPO法人 今秋資料室開設へ



交流記念碑を囲む「遍路とおもてなしのネットワーク」の松岡敬文事務局長（左）とモリナセカ町のバルボア町長（右）＝6月、スペイン・モリナセカ町（提供写真）



年間10万人以上が訪れるキリスト教の聖地に続く道で四国八十八カ所霊場巡りをPR

し、外国人観光客を呼び込むのが狙い。松岡敬文事務局長は「遍路道を歩いて風土や文化に触れ、四国の巡礼の魅力も感じてほしい」とアピールしている。

資料室はキリスト教の三大聖地の一つ、サンティアゴ・デ・コンポステーラから約200キロ離れたモリナセカ町役場の旧庁舎につくり、遍路の白装束や納経帳を展示、スペイン語で霊場を紹介した映像も用意する。

日本政府観光局によると、外国人旅行者のうち、2008年に四国地方を訪れたのはわずか1・1%。全国の県別では、四国4県すべてがワースト6位までに入り、遍路道の世界遺産登録を目指す動きにも水を差している。

松岡事務局長らは6月4日、モリナセカ町を訪問し、交流記念碑を設置。香川県宇多津町、本県の愛南町もモリナセカ町との友好交流を予定しており、世界各地からの観光客招致に力を注ぐ意向だ。